認定NPO法人 環境市民の季刊会報誌

みどりのニュースレター

2021年12月 冬 号（通算323号）

今月の一枚



初冬の京都大原の山々

京都だけでなく全国的に有名な大原の里は、信仰の山である比叡山系の麓にあります。初冬の大原の山々に神秘的な雲がかかり、いよいよ冬の訪れを感じさせます。

（写真提供：小出 廣行さん／本会会員）

今号の内容

p.2-3 【寄稿】ごみを出さずに、笑顔を生み出す
古くて新しい“無駄ゼロ”食品店の挑戦（後編）
p.4 COP26 の結果 環境市民はこう読む
p.5 【報告】環境活動パワーアップ講座 2021 を終えて
p.6 【行事案内】
p.7 【ぐりちょばなし】すすんでいます「ぐりちょ」の更新作業
p.8 12 月は寄付月間

【寄稿】ごみを出さずに、笑顔を生み出す 古くて新しい“無駄ゼロ”食品店の挑戦（後編）

環境を大切にした暮らしは、決してケチケチ生活ではない。環境や地域を大切にした暮らし方は、例えば、欲しいものを購入する時に真面目に一生懸命ものづくりをしている生産者から買う、ひと手間を楽しむ創造的な時間をつくれるなど、モノの背景や関わり方で豊かさを感じられるライフスタイルといえる。では、そんな豊かな暮らし方の実践方法は？

前編に引き続き Zero Waste Kyoto 代表の植良 睦美さんにお話を伺った。

●「楽しい」から入らないと、しんどくなってしまう

植良：消費消費という価値観で生きてきた私のような世代が、環境のためとはいえ一足飛びにミニマムな生活を始められるかというと、やっぱりなかなかきついですよね。そうすると、豊かな食材や、多様な食べ合わせの面白さ、調味料ひとつでこんなに変化するんだ！というような楽しいところから入っていかないと動けなくなってしまいます。

私たちの役割はいい食材を見つけてくることで食に興味を持っていただくこと、「楽しい」を感じていただくことでもあります。そもそも私たちの世代って環境に関するリテラシーがそんなに高くないと感じています。うちの20 代のアルバイトの人たちなんて、小学生の頃から環境教育を受けているから環境リテラシーが非常に高いんですけど。

Q 物質的な豊かさだけではない価値観で生きている若い人たちには、全く違ったものが見えているのかもしれないですね。また将来への心配も持っているでしょうね。

植良：スタッフみんなでアイデアを出し合うことも多いのですが、若い人のアイデアはとても新鮮ですね。例えば仕入れの際にも、いかにごみを出さないようにするかということも生産者の方にもアイデアを出していただいています。製造時につくっていた容器のまま持ってきていただいたりもしているので、うちは一般的なスーパーと比べると日々でてくるごみは非常に少ないようです。ただ小売は本来的には効率重視でやった方がビジネスとしては収益が上がるので、そこは真逆だったりします。

それはそれで課題もありますが、考えずにパッと飛びついてしまうのと、「何かな？」とよく考えてチョイスをするというのは全然違うわけで、ちょっとでも「この店は袋はないんだ、パッケージにも入っていないんだ、何でやろ？」と立ち止まって考えてみる。そして、「そうやね、やっぱりごみになるものはいらないよね。自分もごみが増えたりするのは煩わしいわ」と気づいて、タッパーを持って来られるんですよね。そんなお客様が徐々に増えてきているのは嬉しいことです。



油も量り売りできる

●自分の感性で食を選び取る力を磨いてほしい

Q 私もこちらで納豆を買っていますが、最初に容器を購入する通い箱スタイルは厄介なごみも出ないし、お店の方が保存期間のアドバイスもしてくれました。とても美味しいし気に入っています。

植良：ありがとうございます。日本は賞味期限の基準が厳しく、海外に比べるとかなり短く設定

されることが多いそうですが、食品ロスの観点からは課題も見えてきています。賞味期限の表示に頼りすぎずに、自分の感覚で食べられるかどうかを判断する力を養うことも大事だと思うんです。納豆は発酵食品なので日が経てば発酵は進みますが、きちんと冷蔵保管していれば、すぐに食べられなくなるようなものではありません。もちろん私どもは食を提供する者としてきちんとした管理はしなくてはならないのですが、消費者自身が感性を磨いて、食を選びとる力を身につけていくことも大切なことだと思います。

以前、生産者の藤原納豆さんに、店に納豆定食をつくりに来ていただいたことがあって、納豆をつくっている人と食べる人がここで初めて出会いました。「ああ、この人がつくっているんだ」と、顔が見えたらやっぱり大切に思える。捨てるということも少なくなるんじゃないでしょうか。この店を通じて、生産者のこと、食のこと、さまざまな情報をお伝えする中で、そういった生きる力を磨くお手伝いもできたらいいなと思っています。今日は京北でキノコを作っている方が素晴らしいキノコを持ってきてくださるのですが、実は普通の店では売りにくい商品なんだそう。そういうものもうまくご紹介して提供していきたいです。この店にいろんな仕入れ先さんが来られて、その方々がコラボするなどいろんなアクションも生まれているんですよ。



入れ物をもっていけば豆腐のプラ容器も不要

繰り返し使える納豆の容器



Q 最後に、植良さんが想い描かれる理想像、今後こんなふうになったらいいなっていうのはありますか。

植良：そうですね、どうしても同質の人が物事を考えてもブレイクスルーがないので、違う世代、違う価値観の人と話をしていろんな知恵を出し合いたいです。結果的に目指す目的は地球を破綻させないというところで皆同じですから。そういういろんな人が集まって意見を交わす場を敷居が高くなくつくりたい。そういう場の力をもう少し信じていきたいなと思っています。

世界が終わってしまうというという怖いイメージだけでは金縛りになるばかりですので、未来志向で楽しく日々を過ごしたり、美味しく感じることで、「健康になったな」とか、「エネルギーが出てきたな」というプラスの方向性から“今できること”をうまくご紹介して、その輪が広がっていけばいいな、と思います。

●インタビューを終えて

美味しいものを求めて来店したお客さんが、楽しみながら環境問題や食の問題に気づいたり、これまで知り合う機会がなかった事業者さん同士がここで出会って新たなモノやコトが産まれたりと、ワクワクする場になっていることがよくわかりました。

（取材・文／ペンネーム：キントヨ）

ZeroWaste Kyoto　京都市中京区久遠院前町 673-1
営業時間 10：00〜20：00　定休日：月曜日　https://zerowaste.kyoto

COP26 の結果　環境市民はこう読む

今年 10〜11 月に英国スコットランド・グラスゴーで開催された第 26 回気候変動枠組条約締約国会議（COP26）の結果をどう読むか。本会代表の枚本と理事の松下 和夫氏（京都大学名誉教授）が対談しました。

枚本）グラスゴーでの COP26。今回決定されたことで最も重要なことは？

松下）結果を伝える報道が少なかったが、COP26 で決まったことは、日本の社会と国際競争にさらされている日本企業に大きな影響を与える。
COP26 では次の重要な点が合意された。

- パリ協定は産業革命以降の気温の上昇を 2 度未満に抑え、1.5 度未満を目指すことは努力目標だったが、グラスゴー気候協定では 1.5 度未満を目指すこと、2030 年までに CO2 を 45% 減し、2050 年までにネットゼロにすることが合意された。
- 対策のとられていない石炭火力の段階的削減が合意された。当初の「廃止」という表現がインドなどの提案によってトーンダウンしたものの、国連気候変動枠組条約の会議で初めて石炭火力という具体的排出源が明記され、段階的に減らしていくことが明記された。

枚本）人類にとって重要な会議で日本は先導的役割を果たせたのか、あるいは重石になったのか。

松下）日本も 2050 年にはネットゼロを前提とし 2030 年までに CO2 を 46% 削減、できれば 50% の高みを目指すと岸田首相が明言したことは、日本にとっても国際社会にとっても良かった。また、資金面での協力にも言及したことは評価できる。しかし、石炭火力の廃止には触れずにアンモニアや水素などを使ったゼロエミッション火力を進めることでアジア諸国に貢献すると言った点は問題。

なぜならアンモニア火力はゼロエミッションではない。アンモニアは直接燃やせば窒素酸化物と水になり CO2 は出ないが、製造するために大量の CO2 を排出する。政府のグリーン成長戦略では 2030 年までは石炭火力に 20% アンモニアを混ぜて燃やすことを目指し、2040 年代後半にアンモニア 100% 燃焼を目指すということになっている。20% アンモニア混焼の石炭火力は LNG 火力の 2 倍の CO2 が出る。2040 年代後半までずっと大量の石炭を混焼して CO2 を排出し続けることになる。また、そのために必要なアンモニアの量の確保やコスト面での問題もある。不確かで誤った政策を日本の首相が国際社会に向けて発したことは極めて問題といえる。

枚本）日本政府はどうしても石炭火力発電を延命させたいということだ。私たち NGO は市民に対して、正確な情報を流していくことがまだまだ必要といえる。

松下）アンモニア発電、小型原子力発電、炭素吸収貯留技術など経済的フィージビリティや環境面で問題があるもの、商業化の実用の目処も立っていないような革新的技術開発に国の高額予算が付けられるが、現在ある技術でできることを先送りする口実として使われている。すでに実用化されている再エネ、省エネなどに使えばもっと多くのことが実現できる。

また、地域主導による再エネ推進や既存住宅の断熱改修など雇用創出に結びつけながら地元に利益が戻る仕組みを考えてすすめていくことが必要。

枚本）パリ協定が誕生した時には希望が見えた。今後、具体的かつ着実に進めていくための道具として、各国での工夫がもっと必要だ。

パリ協定は私達人類が他の多様な生物を巻き込んで絶滅することを避けるために、全ての国が誠実に順守しなければならない国際的な約束だ。しかし、残念なことに日本はまだそれを理解できていないようだ。

国、企業、市民へとまだまだ働きかけていかないといけない。

【報告】環境活動パワーアップ講座 2021 を終えて

10 月から 12 月まで、全 5 回の環境活動パワーアップ講座 2021 が終了しました。今回、私は講座のサポーター兼受講者として参加をしました。講座がスタートする前は、自分の目指したい方向性とそれに向けての行動が伴っていなかったり、本当にこの活動を今やるべきなのかどうかということに悩んだり、実現できるのか不安になったりしていました。それまでは自分の役割が見つからないままでいましたが、講座を終えてからは自分のやりたいことが言語化できるようになり、自分の今やるべきことが明確になりました。なにより、講座に参加したことで自分の企画に共感してくれる、応援してくれる仲間に出会えたことが大きな喜びです。私たちと同じく活動に取り組もうと考え、必死に悩む受講者の皆さまと共に過ごした時間がとても良い刺激となりました。

講座の第 1 回では、活動のビジョンをはじめて人に伝えるワークショップをしました。この時には活動とビジョンを上手く結びつけて話ができませんでした。

第 2 回の講座では資源マップに自分の持つ資源を書き出しました。自分の資源の少なさに驚き、本当に自分が考える活動が実現できるのかと心配になりました。そのときの私は「モノの背景まで考える消費選択を当たり前にしたい」というビジョン（ゴール）を設定し、生産者へのインタービューや農業体験を検討しました。しかし、今の私には農業の経験や生産者とのつながりもなくプロジェクトの実現には前途多難であることに気づきます。

第 3 回ではネットワークの広げ方について、第 4 回ではパートナーシップを活かした事例について学び、実際に企画書づくりに取り組みました。グループで企画内容について相談できる機会があり、自分が今できていること、これからやりたいことを伝えると「こんな方法があるよ！」「今までこんな似たような経験があるよ！」とたくさん情報をいただきました。自分が知らない様々な手段があることを知り、自分が自分に限界を設けてしまっていたことに気づきました。

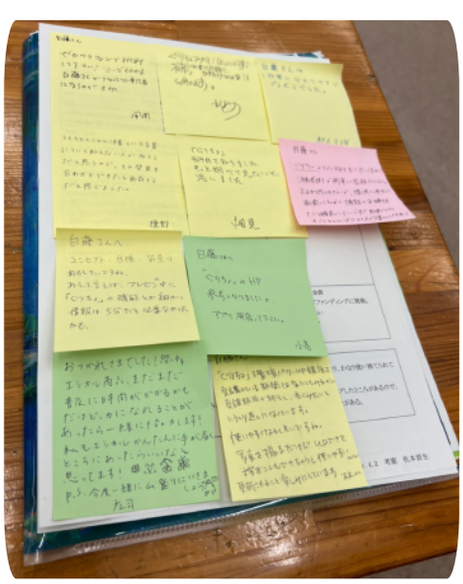
私は環境市民で「ぐりちょ」というサイトのリニューアルに取り組んでいました。とても専門性が高く、あえて触れないでいた部分もありました。しかしデジタルや SNS に強い私たちの世代だからこそできることもある、とヒントをもらい、「ぐりちょ」をアプリにしてエシカル消費を普及させる企画にたどり着きました。

最終回の第 5 回では企画をスライドにまとめて発表しました。受講者の皆さんから共感や応援のメッセージのほか、「ぐりちょ」のアプリ化に向けて協力したいという方も見つかりました。自分の企画とコラボできそうな農業体験やデジタルの活用などを考えていた受講生とのつながりもできました。

講座を受けて、私は思いを伝え相互に理解できる形をつくるという点で成長できました。一方的な意見の発信ではなく共感を得ること、ビジョンを表現して相手にイメージをしてもらうよう意識し、最後の発表でスライドをつくりました。

「環境活動をパワーアップさせたい！」との思いを持つ人々がこの講座に集まり、大きなエネルギーを持ったつながりができました。ここで得た学びとつながりを最大限に活かして、今後の活動に役立てたいです。

（文：SOMPO 環境財団 CSO ラーニング生／京都産業大学 4 回生　白藤 瑞季）



発表後に皆さんからいただいたコメント

令和3年度環境省事業ローカルSDGs人材育成地方セミナー（近畿地区）
（開催協力：環境市民）

本セミナーは、「みんなで地域の未来を創る！ SDGs アクション」と題し、全国各地で持続可能な地域づくりに取り組む方々をお招きし、実践事例やコミュニティの可能性についてお話を伺います。

地域の未来をどうしていきたいのかを共に考え、今後、具体的なアクションに繋げていけるきっかけづくりにしていきたいと考えています。是非、お気軽にご参加ください！

日時：2022 年 1 月 23 日（日）13:00〜15:00
開催場所：京都里山 SDGs ラボ、及び オンライン〔Zoom ウェビナー〕
※現地会場参加は京都府内在住者限定で定員 30 人。オンラインお申込みの方には、ID、パスワードをお送りします。
テーマ：「パートナーシップで育む京都のごみ削減活動」
概要：京都はもともと行政や NPO などの活動団体だけでなく、市民や事業者、大学などを繋いで新たな取り組みを起こし、パートナーシップでのごみ削減の取り組みを行ってきました。このセミナーは、「京都の特性を活かしたごみ減量」を切り口とした SDGs に取り組む人と場を育むことを目的として開催します。
講師：浅利 美鈴さん（京都大学 地球環境学堂 准教授）
関係案内人①：太田 航平さん（NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone 代表理事、一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦）
関係案内人②：安藤 悠太さん（京都大学 工学研究科 博士後期課程、エコ〜るど京大メンバー）
参加費：無料
申込方法：1 月 22 日（土）13 時までに下記リンク先から。
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_gaKyhveDRVOCgSG32zkRNg
問合せ：特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)
E-mail：jimukyoku@esd-j.org　TEL：03-5834-2061　（月・木　10:00-18:00)

連続オンラインセミナー「日本の環境問題を根っこから解決するために必要なこと」第3回「海洋プラスチックごみ削減と日本社会」

温室効果ガスの削減、海洋プラスチック問題に対応した法的整備など、世界では持続可能な社会に向けて革新的な取り組みが加速しています。

一方、日本でもごみ削減をはじめとし、気候変動や生物多様性など多様なテーマで、環境活動や環境教育が行われているものの環境問題の解決には至っていないのが現状です。

私たちの社会システムのどこに問題があるのか、環境活動はどこに注力するべきなのかを、それぞれの講師の専門性を活かした切り口で、具体的事例から考え、企業、行政、NPO 等に新たな視点を提供します。

第 3 回のテーマは「海洋プラスチックごみ削減と日本社会」。

古くて新しい問題として注目されるごみ問題。大量生産大量リサイクル社会をつくり出した日本は、プラスチックごみや食品ごみなどに多くの課題を抱えたままだ。海洋プラスチックなどのごみ問題の根源的な解決のために日本社会はどのような社会システムを構築すべきか、またどのような環境活動に取り組むべきかを考えます。

日時：2022 年 1 月 11 日（火）15：15〜16：50
開催方法：ZOOM によるオンライン

講師：千葉 知世さん（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 准教授）
案内人：枚本 育生（認定 NPO 法人環境市民　代表理事）

申込方法：申し込みフォームかメールでお申し込みください。
フォームでの申込：https://forms.gle/5nYcDS59ooSQ6mYo8
メールでの申込：life@kankyoshimin.org
件名を「連続オンラインセミナー③参加申込」とし、お名前、連絡先をご記入ください。



ぐりにゃんの
ぐりちょばなし

すすんでいます「ぐりちょ」の更新作業

こんにちは。環境市民でインターン活動をしている、SOMPO 環境財団 CSO ラーニング生で同志社大学 1 年の河野 嵩と申します。いま「ぐりちょ」というサイトの更新作業に取り組んでいます。

「ぐりちょ」は「Green & Ethical Choices」の略で、環境、人権、社会、未来を大切にした商品を選ぶ情報サイトです（運営団体：消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク）。

このサイトにはエシカルな商品やグリーンな商品が多数掲載されており、それら商品はどこで売っているのかも知ることができます。

私達インターン生はぐりちょをより良いものとしていくために、下記のような活動を行っています。

・新たな商品項目を追加し、ぐりちょをより充実させる（シリアルなど）
・エシカルな商品を置いている店を調べ、ぐりちょに掲載する
・なぜこの商品が良いのかという説明を分かりやすいものにする

これら作業の結果は、もう少ししたらウェブサイトに反映される予定です。

「ぐりちょ」に載っている商品を買うことは、人や地球環境、社会、地域などに配慮した製品を買うということであり、ひいては環境、社会の問題解決に貢献することにつながります。

このぐりちょというサイトは皆様も参加できる形（商品の追加、店の追加など）になっていますので、ぜひご協力お願いします！



「ぐりちょ」のウェブサイト　https://guricho.net

12月は寄付月間　2021年もおせわになりました。
2022年は環境市民発足30周年！ますますがんばろう～！

12 月は一人ひとりが寄付について考え、持続可能な社会に向けた行動を起こすことを全国規模で呼びかける寄付月間です。1 年の振り返りと、新しい年へ希望をつなぐため、お友達やご家族でも話し合う時間を持ってみませんか。2022 年は本会発足から 30 年という節目の年。同時に、気候変動枠組条約などが採択されたリオ会議から30年でもあります。しかし地球環境は悪化の一途をたどっています。環境市民が発足時から掲げてきた「持続可能で豊かな社会・生活」を次の世代に引き継ぐため「根っこからの解決」が本当に求められています。ますますのご支援、ご参加をよろしくお願いいたします。

環境市民へのご寄付をお願いいたします

1）クレジットカードでのご寄付（下の QR コードをスマートフォン等で読み込んでください）

2）銀行振込によるご寄付

＜郵便振替口座＞京都 01020-7-76578（名義）環境市民

＜銀行口座＞京都中央信用金庫 御池支店

普通 0666071　特定非営利活動法人環境市民 代表理事 枚本 育生

トクヒ）カンキョウシミン ダイヒョウリジ スギモトイクオ



エシカル＆グリーンな商品やサービスをどんな視点で選べばいいのか、わかりやすく紹介してくれるのが、環境市民のマスコットキャクターとなった「ぐりにゃん」です。

ぐりにゃんは「えしかる荘」というアパートに住む猫のユーチューバーです。毎回、いろんなゲストに登場してもらいながら、エシカルな視点を紹介してくれます。どうぞ、ご期待ください。

環境市民のウェブサイト TOP ページからもリンクしています

「会員になる」「寄付をする」も参加の一つです。

環境市民は、ボランティアと会員、寄付によって支えられています。

ありがとう

2021/10/1～12/18（五十音順,敬称略）

【寄　付】石原慎一郎さん,荻野玲子さん,高月紘さん
平山義章さん,匿名希望1人

【ニュースレターの発送など事務局のお手伝い】
久保 浩さん,白藤 瑞季さん

このニュースレターは環境市民サポーターズのボランティアの手で企画、編集、発送されています。一緒にニュースレターを作ってくれるメンバーを募集しています！自分の関心や空き時間によって関わり方は様々です。ご関心のある方は、環境市民事務局までご連絡ください。
【活動内容】企画・構成、原稿手配・執筆、原稿校正、発送作業等
※発送作業以外は、インターネットが使えればどこでもできます。

誰もが参加できる環境 NGO

環境市民
Citizens Environmental Foundation

TEL 075-211-3521　FAX 075-211-3531
mail life@kankyoshimin.org
〒 604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る第二ふや町ビル 206
【平日午前 10:00 から午後 6:00】
http://kankyoshimin.org/
Twitter アカウント：@kankyoshimin
facebook　http://www.facebook.com/kankyohsimin



（発行）特定非営利活動法人 環境市民　（代表・発行人）枚本 育生
本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。